

多発性硬化症・視神経脊髄炎など自己免疫性脳脊髄炎の比較検討 に関する研究について

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年5月30日 ～ 2029年3月31日

〔研究課題〕

炎症性中枢神経疾患の比較検討による多発性硬化症/視神経脊髄炎スペクトラム障害の免疫学的病態機序の解明

〔研究目的〕

多発性硬化症(MS)/視神経脊髄炎スペクトラム障害(NMOSD)をはじめとした炎症性中枢神経疾患の免疫細胞の機能を比較検討し、MS/NMOSDの免疫学的病態機序を解明し、病勢に関するバイオマーカーを検出する。

〔研究意義〕

MS/NMOSDは代表的な中枢神経系(脳・脊髄)の自己免疫疾患であり、再発と寛解を繰り返すことから再発予防薬として様々な薬品が使用されています。しかし、なぜ再発するのか、なぜ再発回数が多い人と少ない人がいるのかといったことは判明されておらず、事前にどの再発予防薬が患者さんにとって適切かはわかりません。再発時と寛解期の免疫細胞の機能を調べることで再発機序と再発予防薬の効果が高い人の免疫細胞の特徴を明らかにし、薬剤を適切に選択するための判断基準となり得る情報を得ることを目的とします。

〔対象・研究方法〕

対象:MSまたはNMOSDと診断された方、並びに自己免疫性脳炎、神経サルコイドーシス、神経ループスと診断された方。

研究方法:2020年より2024年4月まで当院で保存されている血清・脳脊髄液から細胞分画や免疫反応に関わる成分、遺伝子の発現を調べて、診療録の記載された臨床情報と照らし合わせて検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター 脳神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 研究成果及び試料は、あなたの氏名などの個人情報が明らかにならないようにした上で、鍵のかかる部屋に研究期間終了5年後まで保管します。さらに、試料以外の情報や研究成果については研究期間終了10年後まで帝京大学臨床研究センター(Teikyo Academic Research Center, TARC)で保管されます。結果は学会発表や学術誌等で発表します。

〔その他〕 研究への参加は対象者の自由意思に委ねられています。謝礼はありません。また、研究に参加いただけない場合でも、将来に渡り診療上の不利益につながることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 作石 かおり 職名 脳神経内科 教授
研究分担者:氏名 小口 絢子 職名 脳神経内科 助教
所属:帝京大学ちば総合医療センター
住所:千葉県市原市姉崎 3426-3 TEL:0436-62-1211(代表) [内線 2985]